

学校保健委員会だより

令和7年7月29日実施

学校保健委員会は、学校三師（学校医・学校歯科医・学校薬剤師）と学校保健関係者、PTAで学校における児童生徒の健康問題について研究協議し、健康づくりを推進するための組織です。

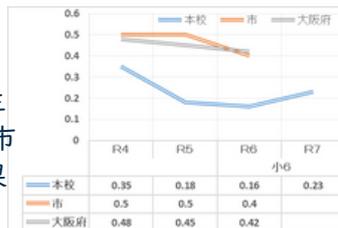
学校より①

R7年4月：生徒視力



視力検査の結果です。中学生になるとぐんと視力の低下している生徒が多くなります。1.0未満の生徒に受診を勧めますが・・・

歯科健診の結果です。小学6年生のDMFT指数（※）は、0.23、中学1年生は0.74で、ともに河内長野市や大阪府平均より少ない結果となっています。



健康診断結果

※ DMFT 指数：永久歯のおし歯経験本数

学校より②

中学1年生で歯科衛生指導を実施しています。学校歯科医の谷先生と歯科衛生士さんから、唾液の働きやブラッシングの大切さについてお話ししていただきます。今年度も2学期に実施予定です。



保健委員会児童がリモート朝会で雨の日遊びの紹介、清潔検査、熱中症予防、睡眠についてアンケートなど、児童から児童への啓発活動を行っています。



学校保健活動の紹介

意見交流より

★視力検査・歯科健診の病院受診率が、小学校と比べるとずいぶん低い。受診についての把握は、受診報告書で行っており、中学生になると、保護者の付添なしで生徒自身で受診することも多いため、受診報告書の提出が少なくなっているのではないかと。保護者・生徒への啓発の回数を増やし、受診報告書の提出をお願いします。（学校歯科医）

★むし歯予防は歯みがきだけではない。唾液の働きも大きい。ガムなどを噛むことによって、唾液の分泌を促すことも大切である。中1での歯科衛生指導でも、話をしていく。（学校歯科医）

★令和6年度保健室来室数において、体調不良者の来室件数が多い。発熱等の来室もあるが、心理的な要因も多いのか。（学校医）

中学校

意見交流より

★歯科のDMFT指数が低いのは、家庭の意識の高さと長年の歯科衛生指導の成果と思われる。その反対に歯列咬合について指摘される子が多くなってきている。口呼吸になっていないか注意することが必要だ。（学校歯科医）

★熱中症について

吐いていたり水が飲めない場合は、熱中症Ⅱ度にあたり、医療が必要な指標になる。水が自分で飲めるようなら体を冷やしながら様子を見るように。

経口補水液は、熱中症の予防のために飲むものではない。塩分も多く含んでいるため、水やお茶代わりに飲むのではなく、軽度・中等度の熱中症などの脱水症状を疑うときに使用するようにするといふ。（学校医・学校薬剤師）

小学校